

KORG

A close-up photograph of the control panel of a Korg SVA-1 piano. The panel is black and features a 'MASTER VOLUME' knob with a scale from 0 to 7, an 'ON/OFF' switch, and two frequency sliders labeled 'BASS' and 'MID' with scales from -5 to 5. The 'SVA' logo is printed in white on the panel. The piano keys are visible in the lower right corner.

エディター・ガイド

SVA-1

STAGE VINTAGE PIANO

①

目次

イントロダクション	4
はじめに	4
SV-1 の電源をオンにする	4
エディット作業の流れ	5
ソフトウェアのインストール	6
SV-1 に付属のソフトウェア	6
動作環境	6
SV-1 を USB で接続する	6
KORG USB-MIDI Driver をインストールする	6
SV-1 エディターをインストールする	7
SV-1 エディターを実行する	11
SV-1 エディターを起動する	11
SV-1 エディターの概要	12
メイン画面	12
メニュー	12
ページ	13
サイド・パネル	14
ノブ	14
COMPARE ボタン	15
サウンドの名前を変更する	15
サイド・パネル	17
Sounds、Favorites、Scales リスト	17
リスト・コマンド	19
MAIN ページ	21
エフェクト・セクション	21
TUNING CURVE セクション	22
TOUCH セクション	24
GLOBAL セクション	25
エフェクトの詳細	27
エフェクト・チェイン	27
EQUALIZER セクション	28
PRE FX セクション	29

AMP MODEL セクション	34
FX セクション	42
RX NOISE ページ	51
RX NOISE セクション	51
EQUALIZER セクション	52
BACK UP ページ	53
BACK UP ページの概要	53
バックアップ・セットの作成とエディット	54
複数のバックアップ・セットから音色を選ぶ	55
バックアップ・セットのデータを SV-1 に転送する	56
バックアップ・ツール	57
メニュー	59
File メニュー	59
Edit メニュー	60
Option メニュー	61
About メニュー	62
付録	63
工場出荷時の音色	63
キーボード・ショートカット	66
保存される設定とその保存先	66

- ・Mac および Mac ロゴは、Apple Inc. の登録商標です。
- ・Windows XP は、Microsoft Corporation の登録商標です。
- ・すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

イントロダクション

はじめに

コルグ・ステージ・ヴィンテージ・ピアノ SV-1 エディターをご使用いただきまして、誠にありがとうございます。SV-1 本体は、シンプルな外観と使いやすさを考え、エディット機能を最小限にしました。このエディターでは、SV-1 のすべてのパラメーターをコンピュータでエディットできます。また、エディットした自分だけのサウンドや設定を、SV-1 の本体やコンピュータに保存できます。SV-1 エディター・ファイルの形式は、Windows でも Mac OS X でも同じなので、設定ファイルを簡単にやり取りすることができます。SV-1 エディターは、サウンドや設定を整理、保存するときに便利です。

SV-1 エディターを使って、SV-1 のサウンド・パラメーターや一般的な設定を手軽に確認したり、エディットしたりすることができます。たとえば、以下の作業を行うことができます。

- 既存のプリセット(サウンドとフェイバリット)をエディットする
- スケールを作成、エディットする
- ライブラリーを作成し、他の SV-1 ユーザーと交換する
- 複数のライブラリーからプリセットを組み合わせる
- プリセットを編集(順番の変更、プリセットの入れ替え)する

SV-1 の電源をオンにする

SV-1 エディターの全機能を利用するためには、ソフトウェアを実行する前に、SV-1 を接続して、電源を入れておく必要があります。SV-1 の電源が切れている場合は、バックアップ・セットを管理するための BACK UP ページのみが表示されます。

SV-1 の電源を入れたときに、コンピューターが「スリープ」モードから復帰する場合がありますが、これは、SV-1 がアクティブになったことを USB ポートが感知するために起こる正常な動作です。

エディット作業の流れ

SV-1 をコンピューターに接続してデータをやり取りするときは、必ず以下の手順に従ってください。

1. USB ケーブルを使用して、SV-1 をコンピューターに接続します。
2. SV-1 の電源を入れます。
3. SV-1 エディターを起動します。
SV-1 本体のメモリーの内容がエディターに転送されるのを待ちます。
コンピューターに保存されたデータをロードすることもできます。ロードするデータは、過去にエディットしたものでも、Web からダウンロードしたものでもかまいません。
4. MAIN ページで、データをエディットします。
変更内容はすぐに SV-1 に反映され、SV-1 を弾きながら確認することができます。ただし、この時点では、変更内容はまだ SV-1 のメモリーに保存されていません。
詳しくは「MAIN ページ」(p.21) を参照してください。
5. 変更内容を SV-1 のメモリーに保存するには、サイド・パネルの下にある WRITE CURRENT PRESET ボタンをクリックします。
詳しくは「WRITE CURRENT PRESET」(p.19) を参照してください。
6. エディットしたデータでバックアップ・セットを作成する場合、サイド・パネルの BACKUP ALL SV-1 DATA ボタンをクリックします。
コンピューターへ保存するためのダイアログが表示されますので、新しいバックアップ・セットの名前を入力し、保存場所を選択して確定します。
詳しくは「BACKUP ALL SV1 DATA」(p.19) を参照してください。
7. SV-1 エディターを終了します。
8. USB ケーブルを抜きます。

ソフトウェアのインストール

SV-1 に付属のソフトウェア

SV-1 エディターを使用する前に、必要なソフトウェアをコンピューターにインストールすることを求めるメッセージが表示されます。

NOTE: お手持ちのソフトウェアの最新のバージョンは、コルグ・ホームページ(www.korg.co.jp)からダウンロードすることができます。

動作環境

SV-1 エディターをインストールするには、以下の仕様を満たしたコンピューターが必要です。

WINDOWS

- OS: Microsoft Windows XP Home Edition/Professional Service Pack 3 以降
- CPU: Intel Pentium IV / 2 GHz 以上、Pentium D または Core Duo 以上を推奨
- メモリー: 1GB 以上
- モニター: 1,024 x 768 以上、フルカラー
- Windows XP の動作環境を満たす USB ポートを搭載
- Java の実行環境 (JRE Version 1.5 以上)

MACINTOSH

- OS: Mac OS X 10.4.11、10.5.x
- CPU: Apple G4 1.4GHz 以上 (Intel Mac 対応)、G5 または Core Duo 以上を推奨
- メモリー: 1GB 以上
- モニター: 1,024 x 768 以上、フルカラー
- Java の実行環境 (JRE Version 1.5 以上)、Mac OS X 10.4 以降では OS に付属のためインストールの必要なし
- Mac OS X の動作環境を満たす USB ポートを搭載

SV-1 を USB で接続する

SV-1 エディターを使用する前に、USB ケーブルで SV-1 をコンピューターに接続します。

KORG USB-MIDI DRIVER をインストールする

SV-1 エディターをインストールする前に、KORG USB-MIDI Driver をコンピューターにインストールしておいてください。

SV-1 エディターをインストールする

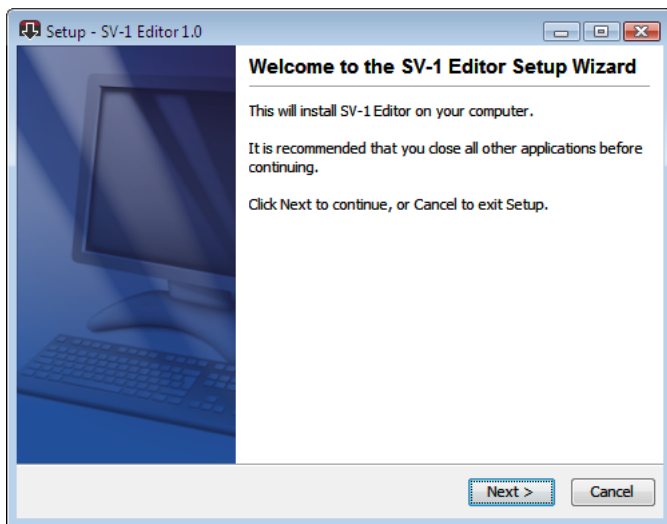
SV-1 エディターをインストールするには、以下の手順に従ってください (Windows の画面で説明しますが、Macintosh でもインストール方法はほぼ同じです)。

1. Windows では、Java バージョン 1.5 以降がインストールされていることを確認します。
Java は、ホームページ (www.java.com/ja/download) からダウンロードできます。
2. SV-1 エディターのインストーラを実行します。
インストーラは、SV-1 に付属のアクセサリー CD に収録されています。

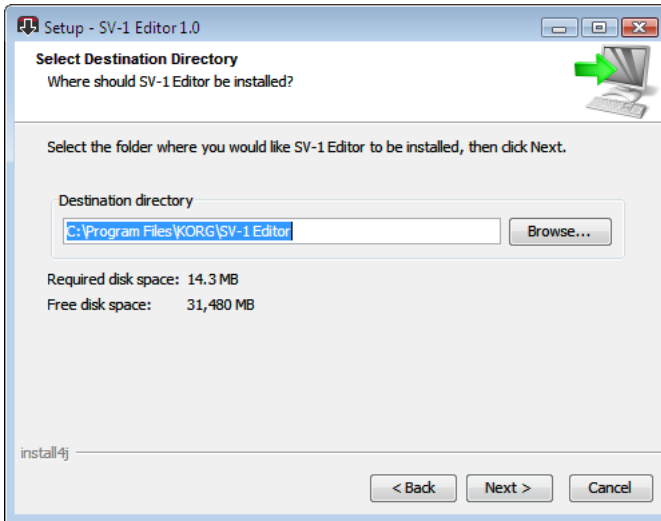


SV1 Editor Installer

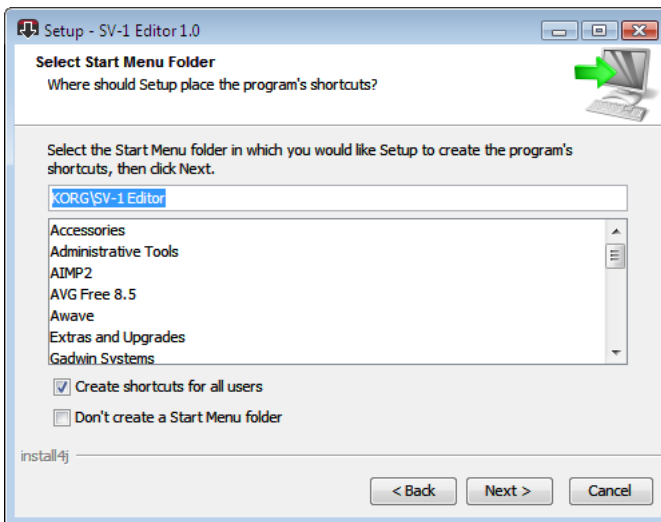
初期画面が表示されます。



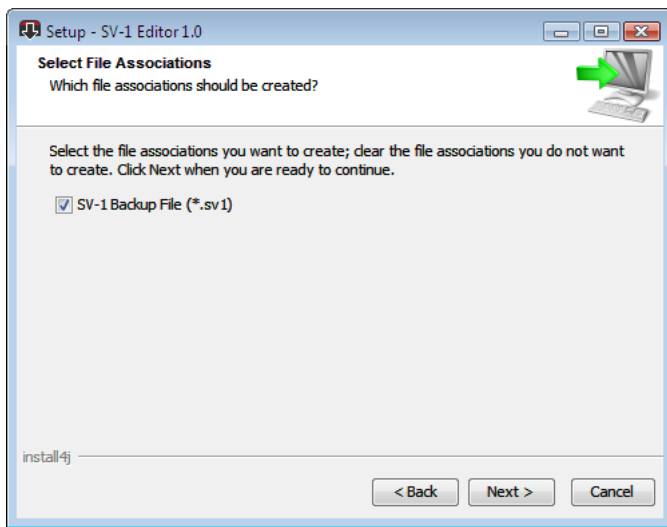
3. [Next>] をクリックします。
インストール先のディレクトリー（フォルダー）を示すダイアログが表示されます。



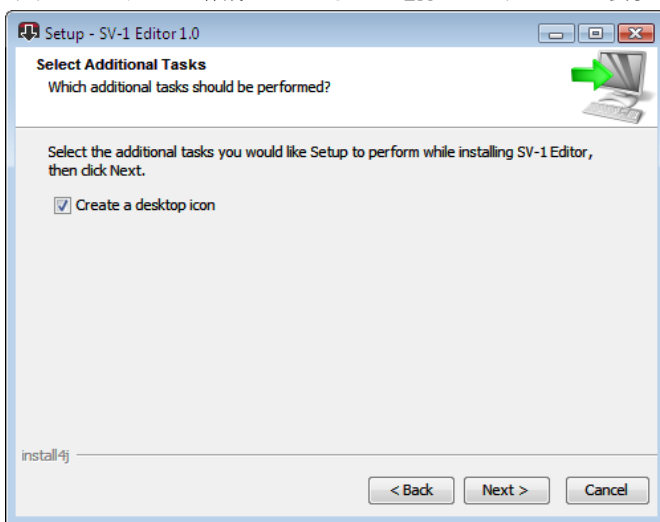
4. インストール先を、Destination directory で表示されている場所では無く、別のところを選択する場合は [Browse] で行います。[Next >] をクリックすると、Windows では、SV-1 エディターのアイコンをスタート・メニューのどこに配置するかを選択するダイアログが表示されます。



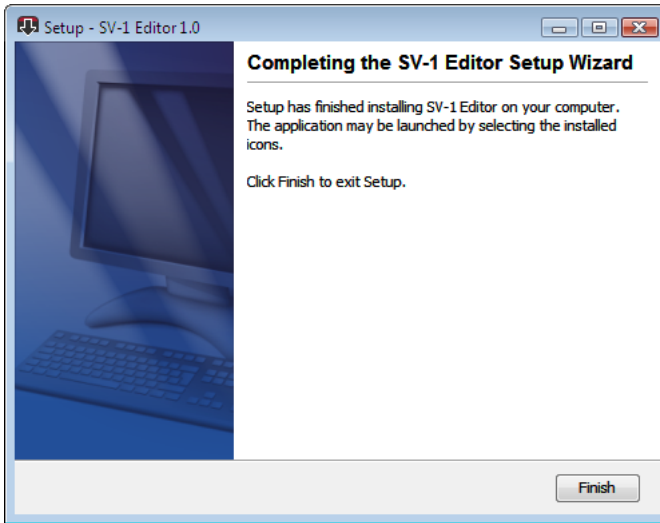
5. [Next>] をクリックすると、必要なファイルがインストールされます。プログレス・バーに進捗状況が表示されたあと、拡張子が「SV1」のファイル *.SV1 と SV-1 エディターとの関連付けを設定するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



6. [Next >] をクリックします。デスクトップにアイコンを作成するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



7. [Next >] をクリックします。
確認のためのダイアログが表示されます。



8. [Finish] をクリックしてインストーラを終了します。

SV-1 エディターを実行する

SV-1 エディターを起動する

SV-1 エディターを起動する前に、USB ケーブルで SV-1 をコンピューターに接続してください。そのとき、SV-1 とコンピューターの電源は、オンでもオフでもかまいません。

接続したら、SV-1 とコンピューターの電源をオンにします。

コンピューターで、SV-1 エディターのアイコンをダブルクリックしてください。



SV-1エディターの起動時に、SV-1のメモリーの内容がエディターに転送されます。転送が完了するまでお待ちください。



NOTE: コンピューターがスリープ・モードに入ると、SV-1 エディターとの接続が中断される可能性があります。この場合は、SV-1 エディターをいったん終了してから、再び起動してください。SV-1 を接続している場合は、コンピューターのスリープ機能を解除することをお勧めします。

SV-1 エディターの概要

メイン画面

SV-1 エディターを実行すると、次のようなメイン画面が表示されます。このウィンドウのサイズは変更できません。



メイン画面は、以下の各セクションを簡単に把握できるように構成されています。

メニュー

画面の一番上にあるメニュー・バーには、コンピューター上のデータを管理するコマンドや、データを SV-1 に転送するコマンド、アプリケーションの環境を設定するコマンドなどが表示されます。

File Edit Option About

ページ

SV-1 のエディターには 3 つのページがあります。各ページを表示するには、画面の上にあるそれぞれのタブをクリックします。



- **MAIN タブ:** MAIN ページが表示され、選択したサウンド、フェイバリット、そして機器全般の設定を行います。
- **RX NOISE タブ:** RX NOISE ページが表示され、エディット中の音色の RX ノイズのボリュームやイコライザーなどを調整します。このページは、選択した音色に RX ノイズが含まれている場合にのみ表示されます。
- **BACK UP タブ:** BACK UP ページが表示され、SV-1 本体とエディターとの間でデータをやり取りしたり、エディターを使ってサウンドやフェイバリットのライブラリを管理したりします。

NOTE: SV-1 の電源が切れているときは、BACK UP ページのみが表示されます。そのときは SV-1 の電源を入れてから、SV-1 エディターをもう一度起動してください。

サイド・パネル

画面の右側にあります。

SV-1のメモリー上に収録されている内容が、リストに表示されます。ここで、エディットするサウンドやフェイバリットを選択します。

SV-1がコンピューターと接続されていなかったり、SV-1の電源が切れているときは、サイド・パネルには何も表示されません。



ノブ

ノブを回して、対応するパラメーターの値をエディットします。ノブをクリックし、ドラッグすることで値を増減できます。

ノブを選択するとオレンジ色になります。この状態で、コンピューターのキーボードの上矢印(または右矢印)や下矢印(または左矢印)キーを押すと、値を更に細かく調整できます。



ノブをダブルクリックすると、対応するパラメーターの値が初期値に戻ります。これは、SV-1 のフロント・パネルのノブを押す操作と同じです。

SV-1 のフロント・パネル上にあるノブには、赤いマークが付いています。



フロント・パネルにも
あるノブ



フロント・パネルには
ないノブ

NOTE: パラメーターの名前は、SV-1 フロント・パネルの実際のノブとは違う場合もあります。

COMPARE ボタン

COMPARE ボタンを押すと、オリジナル(エディット前)の音色を聴くことができます。これによって、オリジナルとエディット中の音色とを簡単に比較できます。

- ・ パラメーターをエディットしていない場合、ボタンはグレーになり使用できません。
- ・ パラメーターをエディットした場合、ボタンは有効になり、SV-1 でパラメーターの状態を検出できます。ノブを回してパラメーターの値を元に戻すと、ボタンはグレーになり無効になります。
- ・ COMPARE ボタンをクリックして一時的に元の設定に戻すと、ボタンは赤くなります。この場合、オリジナルの音色を聴くことができますが、エディットを行うことができません。COMPARE ボタンをもう一度クリックすると、エディット中の状態に戻ります。

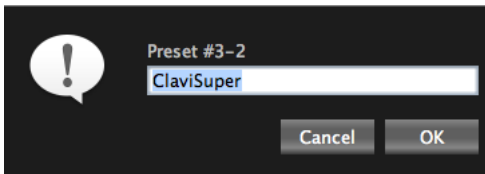



サウンドの名前を変更する

選択したサウンドの名前は、エディターの右上に表示されます。



名前をダブルクリックすると、名前を変更して保存するためのダイアログが開きます。



このダイアログは、Edit メニューの Rename コマンドを選択しても開くことができます。ショートカット・キーを使う場合、Windows では Ctrl + R キー、Macintosh では  + R キーを押します。

サイド・パネル

サイド・パネルは、フロント・パネルの SOUND および FAVORITES セクションに、調律のための SCALE セクションが加わったものです。

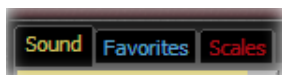
SOUNDS、FAVORITES、SCALES リスト

各リストで、エディットするサウンド、フェイバリット、スケールを選択します。また、エディット後に現在の変更内容を SV-1 のメモリーに保存することができます。

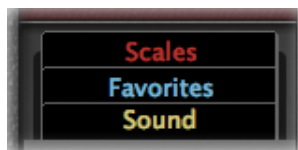


リストを選択する

このセクションの上部にあるタブをクリックすると、対応するリストが表示されます。表示の仕方は、Windows と Macintosh とでは多少違います。



Windows の場合



Macintosh の場合

サイド・パネルを表示 / 非表示にする

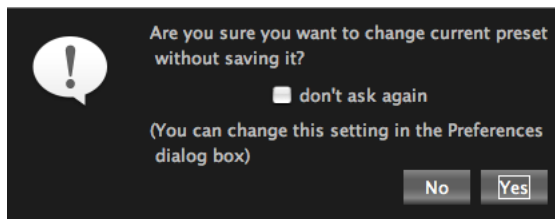
SV-1 エディターを起動すると、サイド・パネルが表示されます。サイド・パネルを非表示にしたり表示させたりするときは、サイド・パネルの左上にある小さな矢印をクリックします。



この設定は、SV-1 エディターを起動し直すとリセットされます。

別のプリセットを選択した場合

エディット中に別のサウンドやフェイバリットを選択した場合、まだ保存されていない変更内容があるときには、そうした変更が失われるという内容の警告が表示されます。

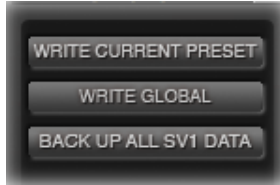


変更内容を確認したり、一旦保存作業を行う場合は No を、エディット中のデータを破棄して別のサウンドを選択する場合は Yes をクリックします。

NOTE: このダイアログが再び表示されないようにするには、don't ask again のチェック・ボックスにチェックをつけます。また、Preferences コマンドで設定することもできます (61 ページ参照)。

リスト・コマンド

サイド・パネルの下に、3つのボタンがあります。このボタンを使って、変更内容を SV-1 のメモリーに保存します。



WARNING: これらのコマンドで変更内容を保存すると、SV-1 のメモリー内にある該当するデータがすべて削除され、上書きされます。後でオリジナルのデータに戻すこともできますが、大切なデータは誤って上書きしないようにバックアップしておくことをお勧めします。

WRITE CURRENT PRESET

このボタンをクリックすると、現在選ばれている(リストで選択されている)サウンドまたはフェイバリットの変更内容が、SV-1 のメモリーに保存されます。ここでは、サウンドとフェイバリットをまとめて「プリセット」と呼びます。

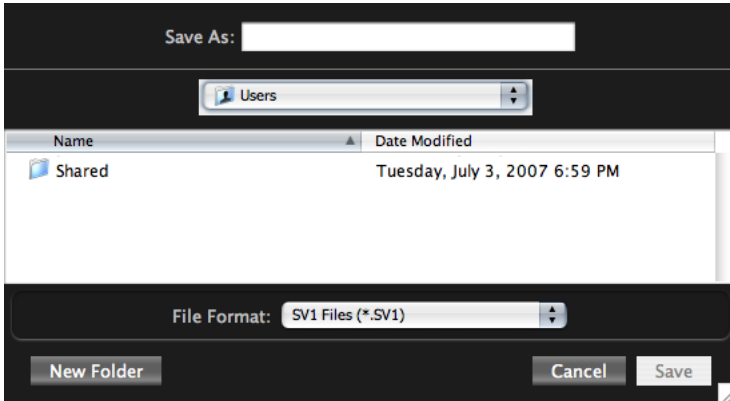
WRITE GLOBAL

このボタンをクリックすると、グローバル・パラメーター(MIDI チャンネルやマスター・チューンなど)の変更内容が、SV-1 のメモリーに保存されます。ただし、トランスポーズとローカル・オフは保存されず、SV-1 の電源を切ると、リセットされます。

BACKUP ALL SV1 DATA

このボタンをクリックすると、SV-1 のメモリーのすべてのデータが、接続したコンピューターにバックアップ・セットとして保存されます(ファイルの拡張子は *.SV1)。これは、エディットしたサウンドを保存し、後で使うときに便利です。

1. このコマンドをクリックすると、保存するためのダイアログが表示されます。



2. Save As で、新しいバックアップ・セットに名前を付けます。
3. 保存場所を選択します。
4. 確定する場合は Save、保存を中止する場合は Cancel をクリックします。

MAIN ページ

MAIN ページでは、選択したサウンドや機器全般の設定を行います。

エフェクト・セクション

エフェクトのパラメーターは、メイン画面にあります。エフェクト・パラメーターの詳細は、28 ページ以降で説明します。

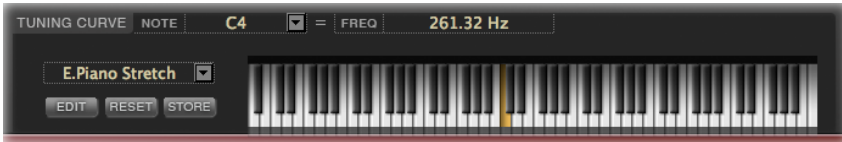


ここに表示されているエフェクトは、SV-1のフロント・パネルのエフェクト・セクションとほぼ同じですが、エディターでは、SV-1で操作できないパラメーターをエディットすることができます。

エディットしたエフェクトは、サイド・パネルの下にある WRITE CURRENT PRESET ボタンをクリックすると、SV-1のメモリー内にあるサウンドまたはフェイバリットに保存できます。

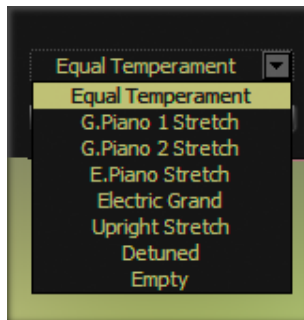
TUNING CURVE セクション

SV-1 には、いくつかのスケール(チューニング・カーブ)が用意されています。それぞれのスケールでは、オリジナルのキーボード・メーカーによって採用されたオリジナルのチューニングが再現され、その楽器に合った響きを出すことができます。



スケールを選択する

鍵盤表示の左側にあるポップアップ・メニューから、スケールを選択できます。



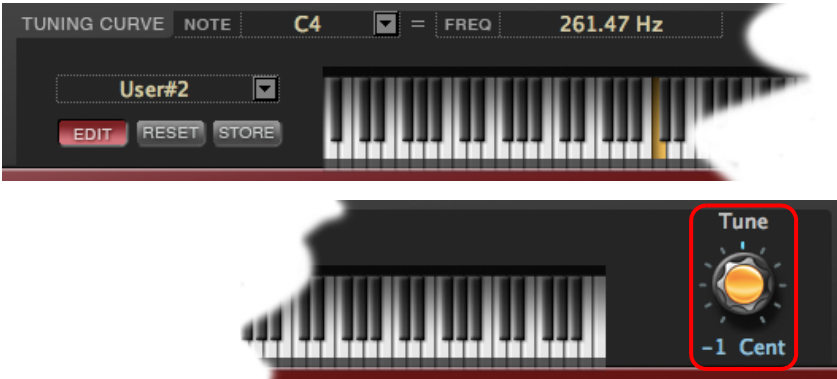
サイド・パネルの下にある WRITE CURRENT PRESET ボタンをクリックすると、選択したチューニング・カーブを、SV-1 のメモリー内にあるサウンドまたはフェイバリットに保存できます。

ユーザー・スケールをエディットする

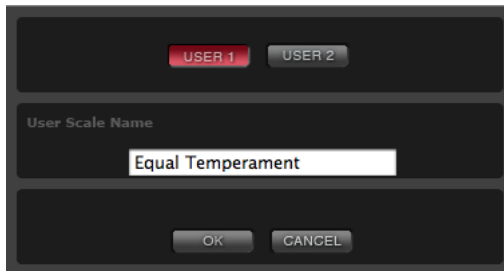
チューニング・カーブをエディットし、2 つのユーザー・スケールのどちらかに保存できます。保存したユーザー・スケールは、サイド・パネルの Scales リストから選択できます。

1. 鍵盤表示の左側にあるポップアップ・メニューから、エディットするスケールを選択します。

2. EDIT ボタンをクリックして、エディット画面を表示します。
Master Tune ノブが Tune ノブに変わります。



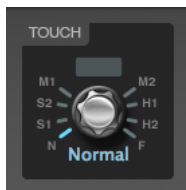
3. 鍵盤表示で、エディットするキー(ノート)をクリックします。または、NOTE ポップアップメニューから音名を選択します。
4. Tune ノブを回し、ノートをセント単位で調整します(1 セント=半音の $\frac{1}{100}$)。
5. エディットするノートごとに、上記の手順 3～4 を繰り返します。
6. EDIT、RESET または STORE ボタンをクリックします。
 - エディットを終了するときは、**EDIT ボタン**をクリックします。
この時点では、変更内容はまだ保存されていません。再びエディット画面に入ると、変更内容がそのまま維持されています。
 - エディットしたスケールの変更内容を破棄する場合は、**RESET ボタン**をクリックします。
 - ユーザー・スケールを保存する場合は、**STORE ボタン**をクリックします。
スケールを保存するためのダイアログが表示されます。



User 1 または User 2 ボタンを選択し、スケール名を付けます。
保存を確定する場合は OK を、保存せずに終了する場合は Cancel をクリックします。
保存した新しいスケールは、サイド・パネルの Scale リストに表示されます。

TOUCH セクション

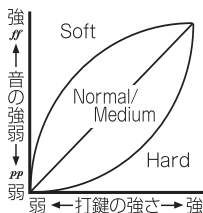
鍵盤の感度を指定するタッチ・カーブを 8 種類の中から選択できます。



設定	タッチ・カーブ	説明
N	Normal (標準)	普通のピアノ・タッチ。
S1	Soft 1 (ソフト 1)	弱く弾いても強音が出せるタッチ。
S2	Soft 2 (ソフト 2)	
M1	Medium 1 (ミディアム 1)	普通の強さで弾いても強音が出せるタッチ。
M2	Medium 2 (ミディアム 2)	
H1	Hard 1 (ハード 1)	強く弾かないと強音が出せないタッチ。
H2	Hard 2 (ハード 2)	
F	Fixed (固定)	ダイナミクスは一定。ダイナミクス値は、ノブの上のボックスに入力する (初期値は 90)。

選択したタッチ・カーブは、サイド・パネルの下にあるWRITE CURRENT PRESET ボタンをクリックすると、SV-1 のメモリー内にあるサウンドまたはフェイバリットに保存できます。

タッチ・カーブは以下の図のようになります。



GLOBAL セクション

トランスポーズ、コントロール・データを送受信する MIDI チャンネル、マスター・チューニング、ローカル・オフ機能のオン、オフなど、全体にかかわるパラメーターをエディットします。



トランスポーズとローカル・オフは、本機の電源を切るとリセットされます。MIDI チャンネルとマスター・チューニングの値は、WRITE GLOBAL ボタンをクリックすると、グローバルの設定として SV-1 に保存されます。

TRANSPOSE

このノブは、SV-1 をトランスポーズする場合に使用します。キーを変えて演奏する場合に便利です。この設定は、本機の電源を切るとリセットされます。

MIDI チャンネル

SV-1 がデータをやりとりする MIDI チャンネルを指定します。選択したチャンネルをグローバル・チャンネルとして保存するには、サイド・パネルの下にある WRITE GLOBAL ボタンをクリックします。

LOCAL OFF

LED が消灯しているときは**ローカル・オン**です。、SV-1 の鍵盤を弾くと内部音源が鳴り、MIDI データをコンピューターに送信します。

LEDが点灯しているときは**ローカル・オフ**です。SV-1では、鍵盤と内部音源との接続が切られるため、鍵盤を弾いても SV-1 の音源は発音しません。このとき、MIDI データは MIDI OUT 端子(または USB 端子)から送信されます。コンピューターなどで MIDI データを受信した場合、エコー・バック(コンピューターが受信した MIDI データを SV-1 の MIDI IN 端子または USB 端子に送信すること)を設定したときは、SV-1 をローカル・オフに設定します。演奏とレコーディングを同時に行うときなどは、こうすることによって、二重に発音することを防ぎます。

この設定は、本機の電源を切るとリセットされます。

MASTER TUNE

このノブでは、一緒に演奏する別の楽器に合わせて、本機の基準ピッチ(音の高さ)微調整します。

設定した基準ピッチをグローバルの設定として保存するには、サイド・パネルの下にある WRITE GLOBAL ボタンをクリックします。

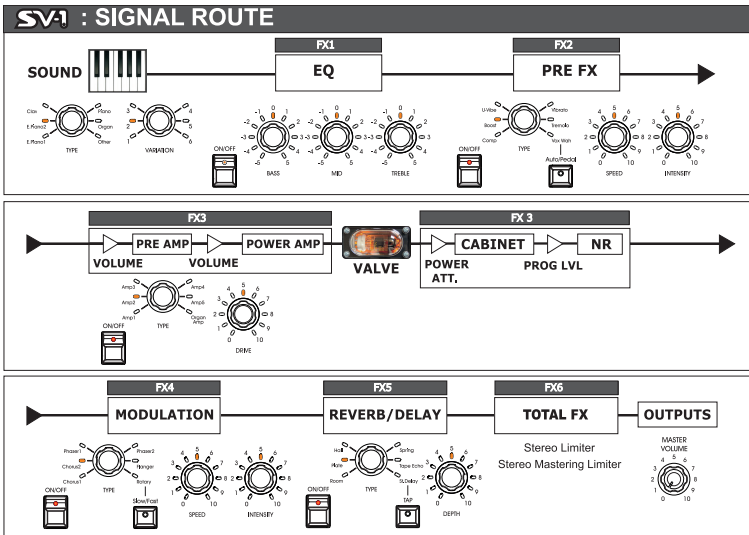
エフェクトの詳細

エフェクト・セクションは、本機のサウンドの中核機能です。SV-1 のフロント・パネルのエフェクト・セクションとはほぼ同じです。

エフェクト・チェーン

EQ と PRE FX(ストンプボックスまたはペダル・エフェクト)は、アンプ・モデルとキャビネット・モデルの前に配置し、モジュレーションやリバーブ/ディレイはキャビネット・モデルの後に配置します。最後に、TOTAL FX(リミッター)でダイナミクスを処理します。

モジュレーション、ディレイ、エコー、リバーブ・エフェクトが、ストンプボックスやアンプの後に置かれる理由は、そのほうが音質も良く、実際の使用法に合っているためです。たとえば、リバーブは、ルームまたはホールのサウンドをエミュレートします。そのため、論理的には、リバーブをサウンドに加えるならば、シグナル・チェーンの最後に近い場所に配置したほうが、「リアル」で自然な響きになります。同じことが、ディレイやモジュレーション系のエフェクトにも言えます。いずれも、信号経路の先頭ではなく最後に近い場所に配置したほうが、自然なサウンドになります。



エフェクト・チェーンを変更することはできません。ただし、セクションごとにオンまたはオフにできます。各エフェクトの横にあるONボタンをクリックして、対応するセクションをオンまたはオフにします。

EQUALIZER セクション

セミパラメトリック・イコライザーで、PRE FX の前に配置されます。

ON スイッチで、EQUALIZER セクションのオンとオフを切り替えます。



パラメーター	値	説明
Bass	-36 ~ 36	低域のゲインを ±18dB の範囲で調節する。
Middle (ゲイン)	-36 ~ 36	中域のゲインを ±18dB の範囲で調節する。
Middle (帯域)	100Hz ~ 10.0kHz	中域の周波数を設定する。
Treble	-36 ~ 36	高域のゲインを ±18dB の範囲で調節する。

PRE FX セクション

PRE FX (別名ストンプボックスまたはペダル・エフェクト) はアンプの前に配置されます。ON スイッチで、PRE FX セクションのオンとオフを切り替えます。

PRE-FX を選択する

PRE-FX の右にあるボックスをクリックし、リストから目的のエフェクトを選択します。



COMPRESSOR

コードを弾く際、各音を均等で滑らかに響かせるときにコンプレッサー・ペダルを用います。独特のパーカッシブなアクセントを加え、ロング・サスティーン効果があります。クリーンな音で人気のコンプレッサー・ペダルをモデルにしています。ポップスやファンク・ミュージックにぴったりのサウンドです。



パラメーター	値	説明
Sens	0 ~ 99	コンプレッサー効果の感度を調整する。このコントロールを時計回りに回すと、コンプレッションの量が増加する。
Level	0 ~ 100	出力レベルを調整する。通常は、コンプレッションによってゲインが下がるのを補正するために使用する。
Attack	0 ~ 99 [ms]	コンプレッサーの効き始めの立ち上がり時間を調整する。短くすると、音の出だしが切れる場合がある。

BOOSTER (VOX VBM-1 トレブル・ブースター)

このエフェクトは、「ギター・オーケストラ」効果を作り出すために開発された有名なブースト / オーバードライブ・エフェクトがモデルになっています。VOX VBM-1 は、濁りのないブーストを信号に加えたり、オルガンの音にオーバードライブを効かせて豊かな倍音を響かせたりします。3 つのコントロールによって広いレンジでの設定が可能で、さまざまなタイプのオーバードライブ・サウンドを作り出すことができます。



パラメーター	値	説明
Drive	0 ~ 99	ディストーション（ブースト）の量を調整する。値を最も小さくした場合、非常にクリーンで、強く鳴らしてもひずみが生じにくいサウンドになる。
Level	0 ~ 100	出力レベルを調整する。
Tone	0 ~ 99	トーンを調整する。

U-VIBE

非常に有名なコーラス / ビブラートのペダル・エフェクトをモデリングしました。このエフェクトはロータリー・スピーカーをシミュレートし、とても魅力的で潤いのあるトーンを作り出します。このペダルを作り出した人は、SV-1 に採用した Valve Reactor 技術を生み出した人でもあるのです。



パラメーター	値	説明
Speed	1.00 ~ 10.00 [Hz]	U-Vibe のビブラートの速さを調整する。
Depth	0 ~ 100	U-Vibe のビブラートの深さを調整する。
Mix	0 ~ 100	ダイレクト・サウンドとビブラートのミックス量を調整する。0 はエフェクトなし、50 はコーラス、100 はビブラート。

ORGAN VIBRATO/CHORUS

このエフェクトは、ヴィンテージ・オルガンのコーラスとビブラート回路をシミュレートしています。

Presetモードでは、Typeノブでビブラートまたはコーラスのタイプを選択し、その他のノブは無効となります。

Customモードでは、DepthノブとSpeedノブでビブラートまたはコーラスのサウンドを調整し、オリジナルよりも幅広い設定が可能です。また、Mixノブでエフェクト・サウンドのみを出力すると、ビブラート(ピッチ・モジュレーション)を作り出すことができます。Customモードでは、Typeノブは無効です。



パラメーター	値	説明
Mode	Preset、Custom	プリセット設定かカスタム設定かを選択する。
Type	V1、C1、V2、C2、V3、C3	Presetモードで、エフェクトのタイプを選択する。V1/V2/V3はビブラートのバリエーション、C1/C2/C3はコーラスのバリエーション。
Vib/Ch Mix	0～100	Customモードで、ビブラートとコーラスのミックス・レベルを設定する。
Depth	0～100	Customモードで、モジュレーションの深さを調整する。
Speed	0.02～20.00 [Hz]	Customモードで、モジュレーションのスピードを調整する。
Mix	0～100	Customモードで、エフェクトの出力レベルを調整する。

TREMOLO

AMP3 モデルに内蔵のポピュラーなトレモロ回路をモデリングしました。Spread ノブの設定では、左右に揺れるパン効果を作り出すことができます。



パラメーター	値	説明
Speed	0.10 ~ 10.00 [Hz]	トレモロのスピードを調整する。
Depth	0 ~ 100	トレモロの深さを調整する。
Spread	0 ~ 100	左右の広がりを調整する。
Mix	0 ~ 100	エフェクトの出力レベルを調整する。

VOX WAH

伝説の VOX ワウ・ペダル V847、V848 Clyde McCoy の 2 つを贅沢にモデリングしました。独特のかすれたトーンにより、多くのプロ・ミュージシャンの人気の的となったペダルです。使いこなすと、赤ちゃんの泣き声から、怒った男のうなり声まで自在なサウンドを作ることができます。



パラメーター	値	説明
Close	0 ~ 99	ワウを閉じた状態での音色を調整する。
Open	0 ~ 99	ワウを開いた状態での音色を調整する。
Manual*	0 ~ 99	ワウの開き具合（ペダルの位置）を調整する。
Model	V847、V848	ワウのタイプを V847、V848 Clyde McCoy から選択する。

Manual：SV-1 のフロント・パネルの Auto/Pedal ボタンを点灯させ、ペダル・ワウにしたときに有効。

NOTE: このエフェクトを選択した場合、ペダル端子 2 に接続したエクスプレッション・ペダル / ボリュームでワウをコントロールできます。詳細については、取扱説明書を参照してください。

音色を作り出すためのヒント: 有名なアーティストを含む多くのミュージシャンは、ワウ・ペダルの「スイート・スポット」を見つけ、ペダルの位置をそこでキープするという方法を使っています。これは「スタック・ワウ」とも呼ばれ、うまく使えば、どんなミックスにも埋もれないユニークなサウンドを作り出すことができます。

AMP MODEL セクション

このセクションでは、アンプ・モデルとキャビネット・モデルを設定します。

ON スイッチで、AMP MODEL セクションのオンとオフを切り替えます。

アンプ・モデル

素晴らしいサウンドを誇る数々のアンプがある中で、モデルとなるアンプを選択する作業は簡単なものではありませんでした。多くの時間を費やして実機収集、検討、および試聴を繰り返し、最良のアンプ/キャビネットのリストが生まれました。こうして選んだアンプは、どれも最高のクオリティを誇るものです。また、音色もできる限りさまざまなタイプを用意しました。

プリアンプとパワー・アンプの動作特性、トーン・コントロールの反応、回路内の配置は、ここで選択したアンプ・タイプによって変わり、オリジナル・アンプのゲインとトーンの特長が表れます。非常に重要な役割を果たすパワー・アンプの動作 (A 級または AB 級)、そしてネガティブ・フィードバック回路特性 (あり、またはなし) も厳密にシミュレートされます。

ゲインとボリュームについて

SV-1 のアンプ・モデルでは、プリ・ボリューム (ドライブ) とアンプ・ボリュームの 2 種類のノブでボリューム (またはゲイン) をコントロールします。各コントロールには固有の機能があり、このノブの設定次第で、アンプ・モデルのサウンドが驚くほど変化します。また、CABINET セクションでは、アンプの出力とスピーカー・キャビネットの入力の間にパワー・アッテネーターが配置されています。CABINET セクションのプログラム・レベル・ノブでは、最終段のミックスのレベルをコントロールしつつ、すべてのプリセットのバランスを保つことができます。

プリアンプ部とパワー・アンプ部の組み合わせは、オリジナル・アンプの動作と同じように設計しています。オリジナル・アンプのサウンドを再現するには、プリ/ドライブのボリューム・コントロールも、実際の機種と同じように操作してください。プリ・ボリュームの設定が低いときは、どちらかというプリアンプ・タイプのディストーションとなり、設定が高いときは、Valve Reactor の歪みと暖かみが加わります。

NOTE: プリ・ボリュームを高く設定すると強く歪むので、推奨しません。

真空管の話

真空管のことをイギリスでは「Valve (バルブ)」、アメリカでは「Tube (チューブ)」と呼びます。同じ言語を使うイギリスとアメリカでも名称は違っていますが、採用したアンプ・モデルの中心には、いずれもあの真空のガラス管が息づいています。今回モデリングしたアンプ

は、この2つの国のどちらかで生まれたものです。本書では、各アンプの故郷を尊重して、イギリス生まれのアンプでは「バルブ」、アメリカ生まれのアンプでは「チューブ」を使っています。

Q: ECC83 プリアンプ・バルブと 12AX7 プリアンプ・チューブの違いは？

A: 違いはありません。どちらも同じもので、アンプの世界ではとても人気のあるプリアンプ真空管です。ECC83 はイギリスでの名称、12AX7 (別名 7025) はアメリカでの名称です。

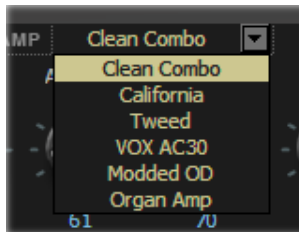
パワー・アンプの精度

すでに述べたように、優れた真空管アンプのパワー段での処理が、アンプのサウンド、ドライブ感、動作に大きな影響を与えています。パワー・アンプの動作 (A、AB 級)、真空管の種類 (EL84、EL34、6L6、6V6)、負帰還回路の特性、パワー段のスピーカーとの応答性 (ダンピング特性) などの要素が、音色に重要な役割を果たしています。こうした要素を実現するために、SV-1 には米国特許取得済みの Valve Reactor 技術が採用されています。Valve Reactor 技術は、特有の真空管サウンドを驚異的な精度でモデリングしたものです。実際の真空管アンプと同じ回路構成を用いて真空管パワー・アンプをエミュレートし、真空管アンプに固有の重要な特性を忠実に、そして正確に再現します。たとえば、アンプ・モデルとして AC30 を選択すると、Valve Reactor パワー段は、A 級、EL84、無帰還という設定に切り替わります。

次に、各アンプ・モデルについて説明しましょう。

アンプ・モデルを選択する

AMP の右にあるボックスをクリックし、リストから目的のアンプ・モデルを選択します。



AMP 1 (CLEAN COMBO)

Clean Combo は、その名の通りクリーンなサウンドで、タイトな弾けるような響きを持ち、低音は深く引き締まった音です。音を強く出すと、低音部が歪む傾向があります。オリジナル・アンプには、Presence コントロールではなく、Bright スイッチが付いています。SV-1 の Presence ノブは、Bright スイッチを、「オフ」と「オン」も含めてエミュレートしています。

オリジナル・アンプのチューブ構成：12AX7 × 2、7025 × 2、12AT7 (別名 ECC81) × 2 (プリアンプ内)、6L6 × 4 (パワー・アンプ内)



パラメーター	値	説明
Pre Vol	0 ~ 100	ディストーションの度合いは、入力信号のレベルと Pre Vol の設定で決まる。Pre Vol の設定を高くすると、ボリューム・レベル全体が上がる。ボリューム・レベルを調整するには、Amp Vol パラメーターを使う。
Amp Vol	0 ~ 100	
Bass	0 ~ 100	低域を調整する。
Middle	0 ~ 100	中域を調整する。
Treble	0 ~ 100	高域を調整する。
Presence	0 ~ 100	標準のトレブル・コントロール・レンジよりも上の帯域をブーストし、超高域を付け加える。

AMP 2 (CALIFORNIA)

1960 年代初頭にカリフォルニア南部で作られたブラックフェイスのギター・アンプです。45W、4 基の 10 インチ・スピーカーにより、きらびやかな音色を実現しています。このアンプの中域出力とパワフルなサウンドは、さまざまな場面で引っ張りだことなりました。

オリジナル・アンプのチューブ構成：12AX7 × 4 (プリアンプ内)、5AR4 × 1 (整流器内)、6L6 × 2 (パワー・アンプ内)、12AT7 × 2

パラメーターの説明については、「AMP 1 (Clean Combo)」(p.36)を参照してください。

AMP 3 (TWEED)

40W、2 基の 12 インチ・スピーカーで作られる、滑らかでファットなディストーション、豊かな倍音を持つクリーン・トーンは、60 年代に活躍した偉大なバンドに愛されました。「クラシック・トーン」と言えば、このアンプの音色のことと言ってもよいでしょう。「Tweed」というニックネームは、ブラウンとゴールドのグリル・クロスが張られ、ラッカー仕上げのツイードを使ったスピーカーから来たもので、その洗練された外見でも有名です。

オリジナル・アンプのチューブ構成 : 12AX7 x 4(プリアンプ内)、5U4 x 2(整流器内)、GT6L6 x 2(パワー・アンプ内)

パラメーターの説明については、「Amp 1 (Clean Combo)」(p.36)を参照してください。

AMP 4 (VOX AC30)

このアンプの基となったのは、1959年製、30W、12インチ・スピーカー2基を搭載したAC30のノーマル・チャンネルのサウンドです。AC30のノーマル・チャンネルには、最低限のノブしかありません。

操作上の注意 : Presence ノブは、オリジナルのAC30の「トップ・カット」を再現していますが、Presenceの名前に合わせ、ゼロに近づくほどカット量が大きくなります。

オリジナル・アンプのバルブ構成 : ECC83 x 4、ECC82 x 1(プリアンプ内)、GZ34 x 1(整流器内)、EL84 x 4(パワー・アンプ内)

パラメーターの説明については、「Amp 1 (Clean Combo)」(p.36)を参照してください。

AMP 5 (MODDED OD)

このモデルでは、有名なカリフォルニアのメーカーの、完全受注生産でハンド・メイドされる高級プリアンプのオーバードライブ・チャンネルをモデリングしました。丸みのある美しい低域、立ち上がりの早いミッド・レンジのアタック、甘美なトレブル音に、豊かな倍音のオーバードライブ、鮮やかなクリーン・トーン、アコースティックなアタック、伸びやかなサスティンが加わり、演奏する楽しみを味わわせてくれます。

オリジナル・アンプのチューブ構成 : 12AX7 x 2(プリアンプ内)、12AX7 x 1(整流器内)、EL34(または6L6) x 4(パワー・アンプ内)

パラメーターの説明については、「Amp 1 (Clean Combo)」(p.36)を参照してください。

AMP 6 (ORGAN AMP)

このモデルは他のアンプとは違って、ヴィンテージ・アンプをモデリングしたものではなく、コルグ・シンセサイザーの斬新なモデルから受け継いだものです。ディストーションには、Overdrive モードと Hi-Gain モードを使用します。さらに 3 バンド・イコライザーを使えば、非常に多彩なディストーションを作り出すことができます。このアンプ・モデルは、オルガン・サウンドに特に適しています。



パラメーター	値	説明
Drive	1 ~ 100	ディストーションの度合いは、入力信号のレベルと Drive の設定で決まる。Drive の設定を高くすると、ボリューム・レベル全体が上がる。ボリューム・レベルを調整するには、Amp Vol パラメーターを使う。
Amp Vol	0 ~ 50	
Bass	-18 ~ 18	低域を調整する。
Middle	-18 ~ 18	中域を調整する。
Treble	-18 ~ 18	高域を調整する。
Drive Mode	Overdrive, Hi-Gain	ディストーションのタイプとして、オーバードライブかハイ・ゲインを指定する。

キャビネット・モデル

ここでは、キャビネット・モデルについて説明します。SV-1 フロント・パネルからアンプ・モデルを選択すると、対応するキャビネット・モデルが自動的に表示されます。このセクションでは、アンプ / キャビネット・コンボをエディットします。キャビネットは、SV-1 のフロント・パネルからは設定できません。

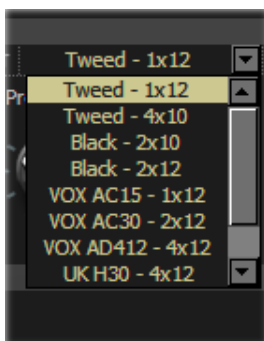
キャビネットとスピーカーの精度

アンプのモデリングがいくら精密でも、スピーカー・キャビネットのモデルも同じように正確に再現していなければ意味はありません。ご存知のように、実際の真空管アンプの出力は、それが駆動するスピーカーのさまざまなインピーダンス曲線に深く関係しています。暖かみのあるサウンド、パンチの効いたサウンド、あるいは心地よいサウンドを出せるか出せないかは、このことに大きく依存します。つまり、スピーカー・キャビネットのモデリングとは、単に周波数特性を考えるだけでなく、トランジェント・レスポンス（音程変化に対するスピーカーの追従性）、アンプ出力に対するスピーカーのインピーダンス曲線などの組み合わせを設計することなのです。さらに、キャビネットのモデリングでは、キャビネットの実際のサイズ、特有の鳴り（材料となる木材の種類や厚さに影響されます）、形状がオープン・タ

イブ、セミオープン・タイプ、クローズドバックのどれか、などを十分に考慮しなければなりません。これらの要素を SV-1 は Valve Reactor 技術による回路とモデリング技術によって解決したのです。

キャビネット・モデルを選択する

CABINET の右にあるボックスをクリックし、リストから目的のキャビネット・モデルを選択します。



TWEED - 1x12

このスピーカー・キャビネットは、Tweed Amp と組み合わせられるものです。名前が示すとおり、12 インチのスピーカー1 基を搭載しており、これは米国製アルニコ・マグネットを使用しています。



パラメーター	値	説明
Power Att	0 ~ 100	パワー・アッテネーターで、パワー・アンプのレベルを設定する。値を変更すると、サウンドの特性も変わる。
Prog Level	0 ~ 100	プリセット全般のボリュームを設定する。
NR Sens	0 ~ 100	ノイズ・リダクション・レベルを調整する。

TWEED – 4x10

米国製アルニコ・マグネット・スピーカーを内蔵する、オープン・バックのこのキャビネットは、10 インチ、8Ω スピーカーを 4 基使用し、パラレル接続で 2Ω のインピーダンスになります。

パラメーターの説明については、「Tweed – 1x12」(p.39)を参照してください。

BLACK – 2x10

このスピーカーは、セラミック・マグネットの 10 インチ・スピーカー 2 基を搭載した 35W オープン・バック・コンボをモデリングしたものです。

パラメーターの説明については、「Tweed – 1x12」(p.39)を参照してください。

BLACK – 2x12

このスピーカー・システムは、12 インチのセラミック・マグネット・スピーカーを 2 基搭載しています。8Ω のユニットですが、パラレルにワイヤリングされて総インピーダンスは 4Ω になっています。

パラメーターの説明については、「Tweed – 1x12」(p.39)を参照してください。

VOX AC15 – 1x12

英国イプスウィッチのセレッション製、12 インチの有名な VOX ブルー・アルニコ・スピーカー 1 基を使用したオープン・バック・コンボです。

パラメーターの説明については、「Tweed – 1x12」(p.39)を参照してください。

VOX AC30 – 2x12

オリジナルでは 12 インチ VOX ブルー・アルニコ・スピーカーを 2 基搭載し、16Ω 用にシリアルにワイヤリングされたこのスピーカー・キャビネットは、VOX の素晴らしい音色をより精密に再現しています。

パラメーターの説明については、「Tweed – 1x12」(p.39)を参照してください。

VOX AD412 – 4x12

ネオジウム・マグネットを採用したカスタム・デザイン of セレッション製 12 インチ・スピーカーを 4 基搭載した、クローズド・バック・キャビネットです。

パラメーターの説明については、「Tweed – 1x12」(p.39)を参照してください。

UK H30 – 4x12

60 年代後期の 30W スピーカーを搭載したこのヘビー・デューティなキャビネットは、UK T75 4x12 と同じ英国のアンプ・メーカーによって作られたものです。

パラメーターの説明については、「Tweed – 1x12」(p.39)を参照してください。

UK T75 – 4x12

この 4x12 クローズドバック・キャビネットは、現代の 75W の英国製スピーカーを搭載しています。

パラメーターの説明については、「Tweed – 1x12」(p.39)を参照してください。

US V30 – 4x12

このブラック・フェイスのキャビネットは、英国製の有名なヴィンテージ・スピーカーを 4 基搭載し、深い低域と輪郭のある高域で知られています。

パラメーターの説明については、「Tweed – 1x12」(p.39)を参照してください。

アンプとキャビネットの組み合わせ例

基本的に、SV-1 では、アンプ・モデルとキャビネット・モデルを自由に組み合わせで多様なサウンドを作ることができますが、ここでは本流とも言える代表的な組み合わせを紹介します。

アンプ・モデル	組み合わせキャビネット・モデル
Clean Combo	Black – 2x12
California	Tweed – 4x10
Tweed	Tweed – 1x12
VOX AC30	VOX AC30 – 2x12
Modded OD	US V30 – 4x12 または UK T75 – 4x12
Organ Amp	Tweed 4x10

FX セクション

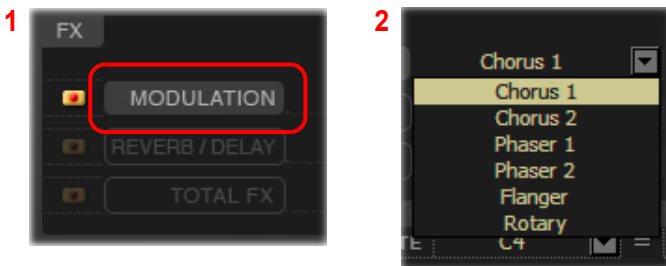
このセクションでは、モジュレーション、リバーブ / デレイ、トータル・エフェクトを設定します。

モジュレーション・エフェクト

キャビネットの後段にモジュレーション・エフェクトを追加できます。モジュレーション・エフェクトは6種類あります。

モジュレーション・エフェクトを選択する

MODULATION ボタンをクリックします。そして、その右にあるボックスをクリックし、リストから目的のモジュレーション・エフェクトを選択します。



CHORUS 1

ギター・アンプに内蔵されていることで有名なコーラス・ユニットをモデリングしました。Mono モードではビブラート、Stereo モードではコーラスになります。Speed ノブと Depth ノブを使用すると、オリジナル・ユニットよりも幅広いサウンド作りが可能です。



パラメーター	値	説明
Speed	0.10 ~ 10.00 [Hz]	モジュレーションのスピードを調整する。
Depth	0 ~ 100	モジュレーションの深さを調整する。
Manual	0 ~ 99	スイープの中心周波数を調整する。Depth の設定が 100 のときは、Manual は機能しない。
Mode	Mono, Stereo	出力モードを選択する。Stereo モードのときは、エフェクト・サウンドが右チャンネル、ドライ・サウンドが左チャンネルから出力する。

CHORUS 2

このステレオ・コーラス+ピッチ・モジュレーター&フランジャーは、本来はギター用エフェクトですが、多くのキーボード・プレイヤーが効果を認めて使用しています。エレクトリック・ピアノで、特殊な「タッチ」を実現できます。



パラメーター	値	説明
Speed	0.10 ~ 10.00 [Hz]	モジュレーションのスピードを調整する。
Intensity	0 ~ 99	モジュレーションの強さを調整する。
Type	Chorus、Pitch Mod、Flanger	エフェクトのタイプを選択する。
Width	0 ~ 100	モジュレーションの深さを調整する。
Mode	Mono、Stereo	出力モードを選択する。

PHASER 1

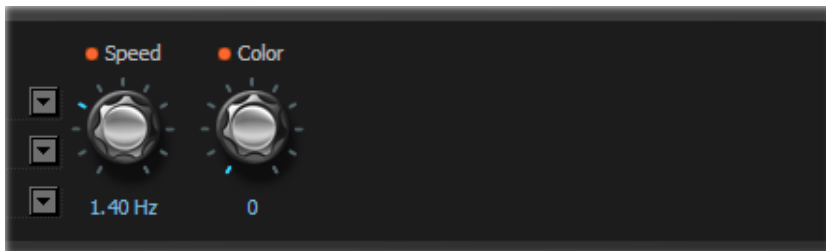
このデバイスは、さまざまなレコーディングに利用されてきました。コード・パッセージに躍動感を与え、サウンドを広げて、豊かにする場合に役立ちます。



パラメーター	値	説明
Speed	0.10 ~ 10.00 [Hz]	モジュレーションのスピードを調整する。
Depth	0 ~ 100	モジュレーションの深さを調整する。
Manual	0 ~ 99	スイープの中心周波数を調整する。Depth の設定が 100 のときは、Manual は機能しない。
Resonance	0 ~ 100	フェイザーのレゾナンスを調整する。周波数レスポンスのピークの高さと鋭さを変更。

PHASER 2

70 年代のニューヨークで生まれたこのクラシック・フェイザーは、暖かく豊かなトーンを持ち、透明感と潤いのある響きを奏でます。



パラメーター	値	説明
Speed	0.10 ~ 10.00 [Hz]	モジュレーションのスピードを調整する。
Color	0, 1	フェイザーのサウンドを 2 段階から選択する。1 ではより深いフェイズ・シフトになる。

FLANGER

クラシックなアナログ・フランジャーをモデリングしました。クラビ系の楽器やエレクトリック・ピアノのコード・プレイに大きな力を発揮します。



パラメーター	値	説明
Speed	0.10 ~ 10.00 [Hz]	モジュレーションのスピードを調整する。
Depth	0 ~ 100	モジュレーションの深さを調整する。
Manual	0 ~ 99	スイープの中心周波数を調整する。Depth の設定が 100 のときは、Manual は機能しない。
Resonance	0 ~ 100	レゾナンスの量を調整する。
Offset	0 ~ 100	LFO の開始位置を調整する。

ROTARY

ステレオ仕様のロータリー・スピーカーをモデリングしました。スピードを Slow または Fast にすると、実際のロータリー・スピーカーのように一定時間後に設定したスピードに到達します。これは、スピーカーの回転を制御するモーターが速度の切り替えに数秒かかるのを再現しているからです。



パラメーター	値	説明
Rotor/Horn	0 ~ 100	低域ローターと高域ホーンとの間の、レベルのバランスを調整する。
Horn Accel	0 ~ 100	高域の Fast と Slow の回転スピードの変化にかかる時間を設定する。
Rotor Accel	0 ~ 100	低域の Fast と Slow の回転スピードの変化にかかる時間を設定する。
Horn Speed	Brake、50 ~ 200	ホーンの回転速度を調整する。Brake を選択した場合、ホーンの回転は停止する。
Rotor Speed	Brake、50 ~ 200	ローターの回転速度を調整する。Brake を選択した場合、ローターの回転は停止する。
Slow/Fast	Slow、Fast	回転速度をスローとファーストの間で切り替える。

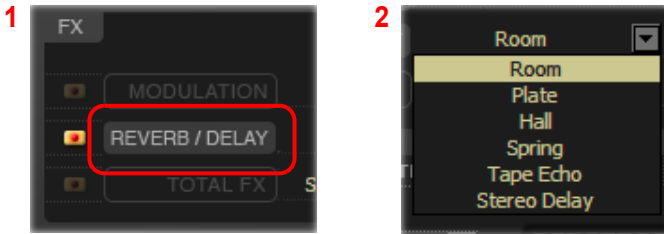
NOTE: このエフェクトを選択した場合、ペダル端子 1 に接続したフット・スイッチで、ロータリーのスローとファーストを切り替えることができます。詳細については、取扱説明書を参照してください。

リバーブ / ディレイ・エフェクト

キャビネットとモジュレーションの後に挿入されるリバーブ、エコー、ディレイ・エフェクトを調整できます。

リバーブ / ディレイ・エフェクトを選択する

REVERB/DELAY ボタンをクリックします。そして、その右にあるボックスをクリックし、リストから目的のリバーブ / ディレイ・エフェクトを選択します



ROOM リバーブ

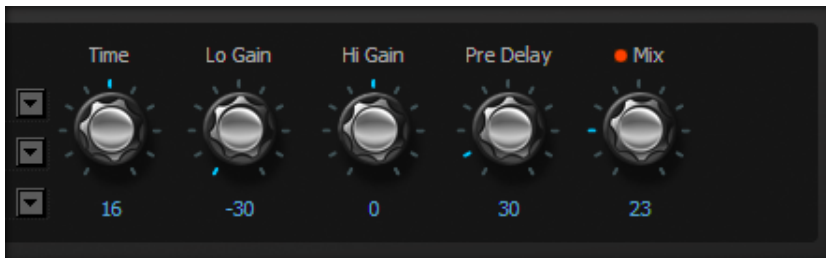
初期反射音を多く含む、一般的な部屋の残響をモデリングしました。



パラメーター	値	説明
Time	0 ~ 99	リバーブ・タイムを設定する。リバーブのタイプによって異なる。
Lo Damp	0 ~ 100	低域の減衰を調整する。
Hi Damp	0 ~ 100	高域の減衰を調整する。
Pre Delay	0 ~ 70	反響が始まる前の初期ディレイを設定する。この設定を調整すると、オリジナルのサウンドの輪郭を際立たせることができる。
Mix	0 ~ 100	リバーブのミックス量を調整する。

PLATE リバーブ

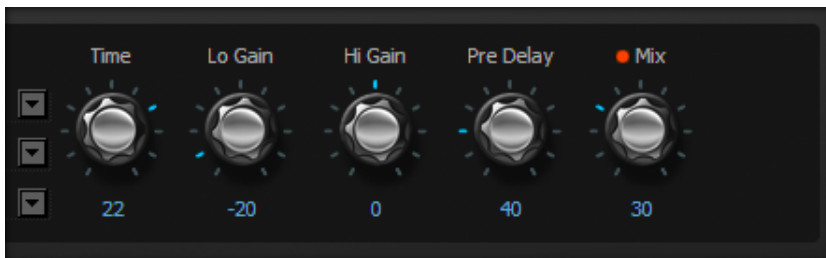
スプリングではなく金属板を振動させるタイプのリバーブ・ユニットをモデリングしました。リバーブ・タイムは短めです。立ち上がりの早い残響で、パーカッシブなプレイに適しています。



パラメーター	値	説明
Time	1 ~ 30	リバーブ・タイムを設定する。リバーブのタイプによって異なる。
Lo Gain	-30 ~ 30	低域の減衰を調整する。
Hi Gain	-30 ~ 30	高域の減衰を調整する。
Pre Delay	0 ~ 200	反響が始まる前の初期ディレイを設定する。この設定を調整すると、オリジナルのサウンドの輪郭を際立たせることができる。
Mix	0 ~ 100	リバーブのミックス量を調整する。

HALL リバーブ

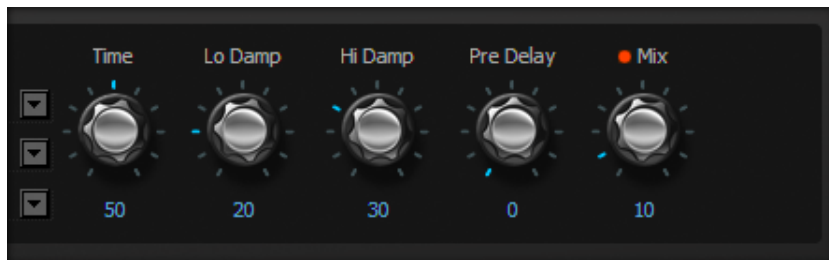
エコー成分を多く含むコンサート・ホールの残響をモデリングしました。



パラメーター	値	説明
Time	1 ~ 30	リバーブ・タイムを設定する。リバーブのタイプによって異なる。
Lo Gain	-30 ~ 30	低域の減衰を調整する。
Hi Gain	-30 ~ 30	高域の減衰を調整する。
Pre Delay	0 ~ 200	反響が始まる前の初期ディレイを設定する。この設定を調整すると、オリジナルのサウンドの輪郭を際立たせることができる。
Mix	0 ~ 100	リバーブのミックス量を調整する。

SPRING リバース

一部のアンプに搭載されているスプリング・リバース・システムをモデリングしました。



パラメーター	値	説明
Time	0～99	リバース・タイムを設定する。リバースのタイプによって異なる。
Lo Damp	0～100	低域の減衰を調整する。
Hi Damp	0～100	高域の減衰を調整する。
Pre Delay	0～70	反響が始まる前の初期ディレイを設定する。この設定を調整すると、オリジナルのサウンドの輪郭を際立たせることができる。
Mix	0～100	リバースのミックス量を調整する。

TAPE ECHO

アナログ・テープ・エコーの名機をモデリングしました。オリジナルの実機では、「エコー」は再生ヘッドによって作られ、「ディレイ・タイム」はモーターの回転速度を調節して設定されます。暖かさと陰影のあるエコーが生まれるため、多くのプロ・ミュージシャンが、この「ローファイ」ユニットを好んで使っています。



パラメーター	値	説明
Time	0～2700	ディレイ時間を設定する。
Feedback	0～100	フィードバックの量を調整する。
Tone	0～99	ディレイのトーンを調整する。
Lo Damp	0～100	低域の減衰量を調整する。
Mix	0～100	ディレイのミックス量を調整する。

STEREO DELAY

ディレイ・タイムをテンポに合わせて設定することのできる、ステレオ・ディレイです。



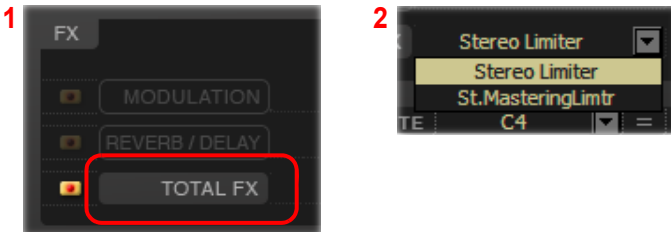
パラメーター	値	説明
BPM	39.95 ~ 300	ディレイ・タイムを BPM (Beats Per Minute) 単位で設定する。
L Delay	Thirty-sec ~ Whole	左チャンネルのディレイの音価を指定する。
R Delay	Thirty-sec ~ Whole	右チャンネルのディレイの音価を指定する。
Feedback	0 ~ 100	フィードバックの量を調整する。ディレイの反復数が増減する。
Hi Damp	0 ~ 100	高域の減衰量を調整する。
Mix	0 ~ 100	ディレイのミックス量を調整する。

トータル・エフェクト

キャビネット、モジュレーション、リバーブ / ディレイの後に挿入されるリミッターの設定を調整できます。トータル・エフェクトは、SV-1 のフロント・パネルからは設定できません。

トータル・エフェクトを選択する

TOTAL FX ボタンをクリックします。そして、その右にあるボックスをクリックし、リストから目的のトータル・エフェクトを選択します。



STEREO LIMITER

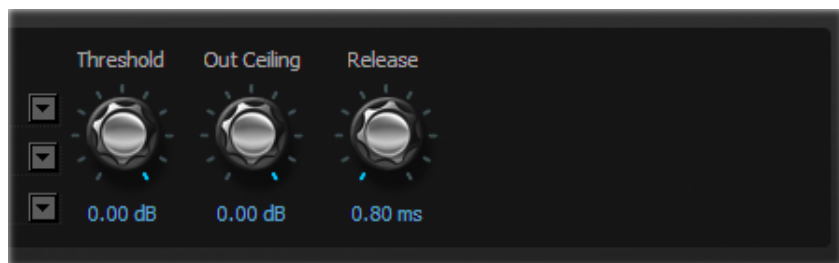
リミッターは出力信号のレベルを制限します。コンプレッサーに似ていますが、リミッターは、指定したレベルを超えた信号にのみコンプレッションをかけ、不要なピーク信号を低減します。



パラメーター	値	説明
Ratio	1.0 : 1 ~ Inf : 1	信号の圧縮率を設定する。コンプレッションは、信号レベルが Threshold の値を超えた場合に適用される。
Threshold	-40 ~ 0 [dB]	コンプレッサーが適用されるレベルを設定する。
Attack	1 ~ 100 [ms]	アタック・タイムを設定する。アタック・タイムを高く設定すると、コンプレッションがゆっくりとかけられるので、大きな音の場合もすぐには反応しない。
Release	1 ~ 100 [ms]	リリース・タイムを設定する。リリース・タイムを高く設定すると、コンプレッションがゆっくりとリリースされる。
Gain	- Inf, -38 ~ +24 [dB]	出力ゲインを設定する。コンプレッションによってゲインが下がるのを補正するために使用する。

STEREO MASTERING LIMITER

マスタリングに最適化された、ステレオ・リミッターです。

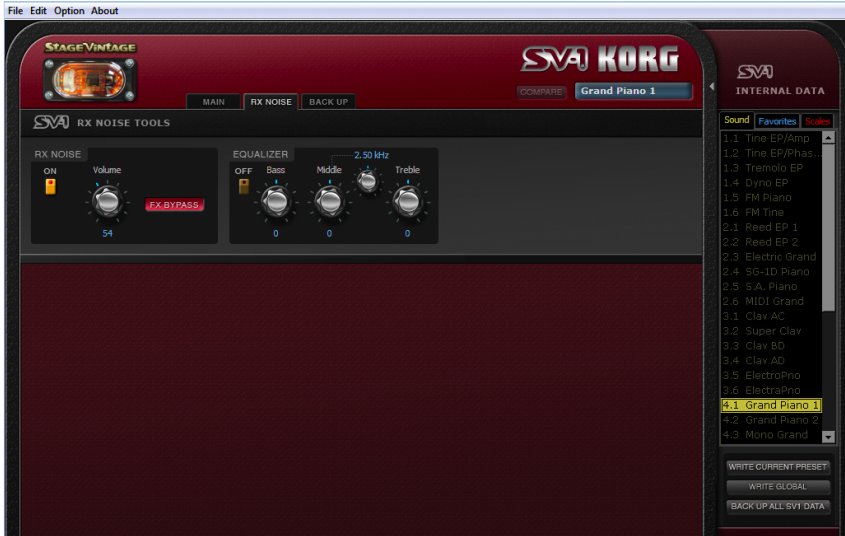


パラメーター	値	説明
Threshold	-30 ~ 0 [dB]	コンプレッサーが適用されるレベルを設定する。
Out Ceiling	-30 ~ 0 [dB]	出力ゲインを設定する。コンプレッションによってゲインが下がるのを補正するために使用する。
Release	0.00 ~ 1000.00 [ms]	リリース・タイムを設定する。

RX NOISE ページ

このページは、選択したサウンドやフェイバリットにRXノイズが含まれている場合にのみ表示されます。プリセットやフェイバリットにRXノイズが含まれているかどうかを確認するには、「工場出荷時の音色」の表(63 ページ)を参照してください。

このページでは、エディット中のサウンドやフェイバリットに含まれているRXノイズ全体のボリューム、RX ノイズのイコライザーなどを調整します。この設定内容は、サイド・パネルの下にある WRITE CURRENT PRESET ボタンをクリックすると保存できます。



HINT: RX ノイズのみを聴くには、このページで FX BYPASS をオンにし、AMP MODEL (「AMP MODEL セクション」(p.34) 参照) をオンにして、Prog Level (「キャビネット・モデル」(p.38) 参照) を 0 に設定します。

RX NOISE セクション

RX ノイズをオンまたはオフにしたり、RX ノイズ全体のボリュームを調整したりすることができます。また、RX ノイズをエフェクトに送信するかどうかを FX BYPASS ボタンで指定できます。

ON スイッチで、RX NOISE セクションのオンとオフを切り替えます。

パラメーター	値	説明
Volume	0 ~ 127	RX ノイズの出力レベルを調整する。
FX Bypass	ON、OFF	オフでは、RX ノイズはエフェクトに送信される。オンでは、出力ドライ信号に送信される。

EQUALIZER セクション

RXノイズにかけるイコライザーを調整したり、そのイコライザーをオンまたはオフにしたりすることができます。

ON スイッチで、EQUALIZER セクションのオンとオフを切り替えます。

パラメーター	値	説明
Bass	-36 ~ 36	低域のゲインを調整する。
Middle (ゲイン)	-36 ~ 36	中域のゲインを調整する。
Middle (帯域)	100Hz ~ 10.0kHz	中域の周波数を設定する。
Treble	-36 ~ 36	高域のゲインを調整する。

BACK UP ページ

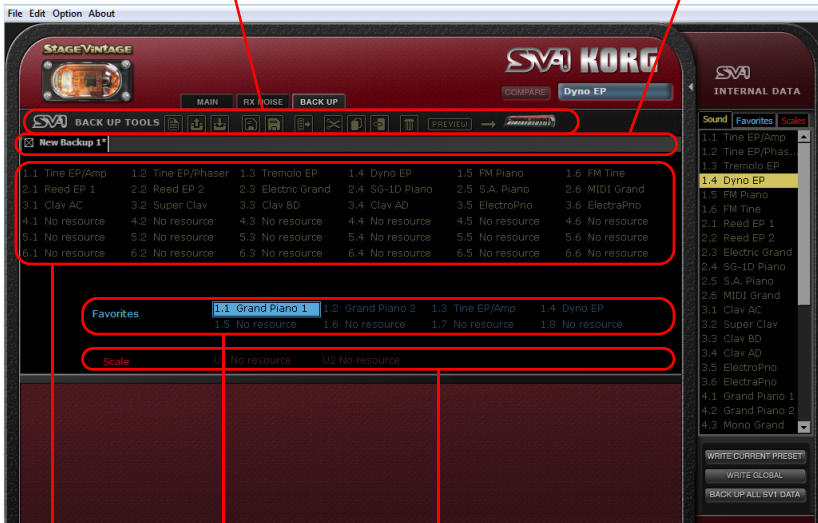
バックアップ・セットを作成し、エディットすることができます。

BACK UP ページの概要

BACK UP ページはいくつかの領域に整理されています。

バックアップ・ツール (57 ページ)

タブ



サウンド

フェイバリット

ユーザー・スケール

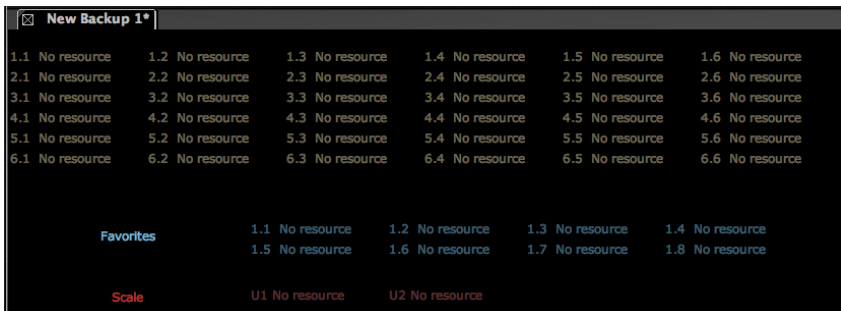
バックアップ・セットの作成とエディット

右側にあるサイド・パネルには、SV-1 本体のメモリーにある、すべてのデータが表示されます。このデータを、接続したコンピューターにバックアップ・セットとして保存（ファイルの拡張子は *.SV1）することができます。詳しくは、「BACKUP ALL SV1 DATA」(p.19)を参照してください。

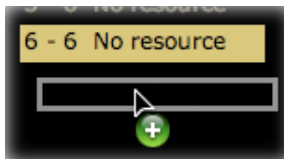
SV-1 エディターでは、SV-1 からいくつかのデータを選んで、新しいバックアップ・セットを作成することができます。ここでは、その手順を説明します。

データの順番を変更したり、使用頻度の低いデータを他のデータと変更したりするときは、バックアップ・セットを作成すると便利です。

1. BACK UP タブをクリックして、BACK UP ページに入ります。
2. バックアップ・ツールの一番左にある、New アイコンをクリックします。
新しい空のバックアップ・セットが作成されます。



3. サイド・パネルの Sound リスト、Favorites リストから、サウンドやフェイバリットを選び、バックアップ・セット内にドラッグします。
サウンドとフェイバリットのドラッグ先は、バックアップ・セット内のサウンド、フェイバリットのどちらでも構いません。



バックアップ・セット内にサウンドやフェイバリットを加えるときは、1つ1つ選択する方法以外に、以下の方法があります。

・連続した複数のデータをまとめて選択するには、最初のデータをクリックし、Shift キーを押しながら最後のデータをクリックします。

・連続していない複数のデータを選択するには、Windows の場合は、Ctrl+Alt キーを押しながらクリックします。Macintosh の場合は、**⌘** キーを押しながらクリックします。

・バックアップ・ツールの Copy、Cut、Paste アイコンをクリックして、データをコピー・アンド・ペーストする方法や、メニュー・コマンドを選択する方法もあります。

4. サイド・パネルのユーザー・スケールを、バックアップ・セット内の空の Scales リストへドラッグします。
5. 新しいバックアップ・セットのエディットが終わったら、バックアップ・ツールの Save アイコンをクリックし、バックアップ・セットを接続したコンピューターに保存します。

複数のバックアップ・セットから音色を選ぶ

複数のバックアップ・セットからサウンドやフェイバリットを選び、1 つのバックアップ・セットを作成することができます。

1. 新しいバックアップ・セットを作成します。または、すでに作ったバックアップ・セットを選び、バックアップ・ツールの Open アイコンで、バックアップ・セットを表示します。ここでは「バックアップ・セット A」とします。
新しいバックアップ・セットの作成方法は、「バックアップ・セットの作成とエディット」(p.54) を参照してください。
2. バックアップ・ツールの Open アイコンをクリックし、他のバックアップ・セットを開きます。ここでは「バックアップ・セット B」とします。
バックアップ・セット B が表示されます。
3. バックアップ・セット B の中から、バックアップ・セット A に入れるデータをクリックし、バックアップ・ツールの Copy アイコンをクリックします。
選択したデータがコピーされます。
4. バックアップ・セット A を表示します。
5. バックアップ・セット A で、データをペーストする場所を選択してから、バックアップ・ツールの Paste アイコンを選択します。
手順 3 で選んだデータが、バックアップ・セット A にペーストされます。
6. バックアップ・セット A のエディットが終わったら、Save アイコンまたは Save As アイコンをクリックし、バックアップ・セット A を接続したコンピューターに保存します。

バックアップ・セットのデータを SV-1 に転送する

バックアップ・セットから、サウンド、フェイバリット、ユーザー・スケールの個々のデータを SV-1 のメモリーに転送するときは、以下の手順で行います。

1. バックアップ・ツールにある Open アイコンをクリックし、転送するデータの入ったバックアップ・セットを開きます。
2. バックアップ・セットのサウンド、フェイバリット、ユーザー・スケールを、SV-1 へ転送します。
 - データを個別に転送するときはバックアップ・セットのサウンド、フェイバリットを、サイド・パネル上の Sound リストまたは Favorites リストにドラッグします。サウンドとフェイバリットのドラッグ先は、サイド・パネルの Sound リスト、Favorites リストのどちらでも構いません。ユーザー・スケールを、サイド・パネルの Scales リストにドラッグします。

NOTE: 複数のデータを同時に選択できます (54 ページを参照してください)。

NOTE: バックアップ・ツールまたはメニュー・コマンドを使用して、サウンド等をコピーまたは移動することもできます。

- 選択したバックアップ・セットのすべての内容を、SV-1 のメモリーへ転送するときはバックアップ・ツールの Transmit アイコンや、File メニューの Transmit を選択し、実行します。ただし、バックアップ・セットで “No resource” と表示されているものは無視され、SV-1 のメモリーにあるデータがそのまま使用されます。

WARNING: SV-1 へバックアップ・セットを転送すると、SV-1 のメモリーの内容が書き替わり、元にあったデータは削除されます。大切なデータは、必ずバックアップしてください。

バックアップ・ツール

バックアップ・セットの画面の上には、バックアップ・ツールがあります。



これらのツールは、メニュー・コマンドとほぼ同じです。ツールを使用して、バックアップ・セットのデータやバックアップ・セット自体を管理します。

NEW



新しい空のバックアップ・セットを作成します。

OPEN



コンピューターに保存したバックアップ・セットを開きます。

CLOSE



選択しているバックアップ・セットを閉じます。

変更内容を保存していない場合、保存するかどうかのメッセージが表示されます。名前の横の小さなボックスをクリックしてタブを閉じることもできます。

SAVE



選択しているバックアップ・セットを保存します。

初めて保存する場合、保存場所と名前を指定するようメッセージが表示されます。

SAVE AS



選択しているバックアップ・セットを、保存場所を指定し、名前を付けて保存します。

TRANSMIT



選択したバックアップ・セットを、SV-1 のメモリーに転送します。ただし、バックアップ・セットで “No resource” と表示されているものは無視され、SV-1 のメモリーにあるデータがそのまま使用されます。

WARNING: SV-1 へバックアップ・セットを転送すると、SV-1 のメモリーの内容が書き替わり、元にあったデータは削除されます。大切なデータは、必ずバックアップしてください。

CUT



選択したデータをバックアップ・セットから削除し、クリップボードにコピーします。

COPY



選択したデータをクリップボードにコピーします。

PASTE



カットまたはコピーしたデータを、バックアップ・セットの指定した位置にペーストします。

DELETE



選択したデータをバックアップ・セットから削除します。

PREVIEW



このアイコンをクリックすると、プレビュー・モードに入り、その音を聴くことができます。


この操作では、選択したサウンドが SV-1 に一時的に転送されるだけで、SV-1 のメモリーからデータが削除されるわけではありません。

NOTE: サウンドが気に入った場合は、WRITE CURRENT PRESET ボタンをクリックして恒久的に保存することができます。

サイド・パネルのサウンドやフェイバリットを選択すると、バックアップ・セットのエディット状態に戻ります。

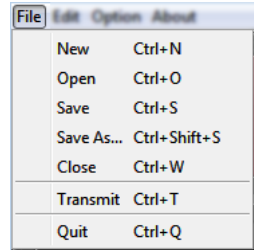
メニュー

メニュー・バーからコマンドにアクセスし、コンピューター上のデータを管理したり、データを SV-1 に転送したりできます。



FILE メニュー

このメニューには、データ管理するためのコマンドが含まれます。



File	Edit	Option	About
New		Ctrl+N	
Open		Ctrl+O	
Save		Ctrl+S	
Save As...		Ctrl+Shift+S	
Close		Ctrl+W	
Transmit		Ctrl+T	
Quit		Ctrl+Q	

NEW

新しい空のバックアップ・セットを作成します。

OPEN

コンピューターに保存したバックアップ・セットを開きます。

SAVE

選択しているバックアップ・セットを保存します。

初めて保存する場合、保存場所と名前を指定するようメッセージが表示されます。

SAVE AS...

選択しているバックアップ・セットを、保存場所を指定し、名前を付けて保存します。

CLOSE

選択しているバックアップ・セットを閉じます。

変更内容を保存していない場合、保存するかどうかのメッセージが表示されます。名前の横の小さなボックスをクリックしてタブを閉じることもできます。

TRANSMIT

選択したバックアップ・セットを、SV-1 のメモリーに転送します。ただし、バックアップ・セットで “No resource” と表示されているものは無視され、SV-1 のメモリーにあるデータがそのまま使用されます。

WARNING: SV-1 へバックアップ・セットを転送すると、SV-1 のメモリーの内容が書き替わり、元にあったデータは削除されます。大切なデータは、必ずバックアップしてください。

QUIT

SV-1 エディターを終了します。

変更内容を保存する前このコマンドを選択すると、保存するかどうかのメッセージが表示されます。

EDIT メニュー

このメニューでは、エディターのデータを操作できます。

Edit		Option	About
Cut	Ctrl+X		
Copy	Ctrl+C		
Paste	Ctrl+V		
Delete	Delete		
Rename...	Ctrl+R		

CUT

選択したデータをバックアップ・セットから削除し、クリップボードにコピーします。

COPY

選択したデータをクリップボードにコピーします。

PASTE

カットまたはコピーしたデータを、バックアップ・セットの指定した位置にペーストします。

DELETE

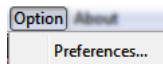
選択したデータをバックアップ・セットから削除します。

RENAME

選択したデータの名前を変更できます。

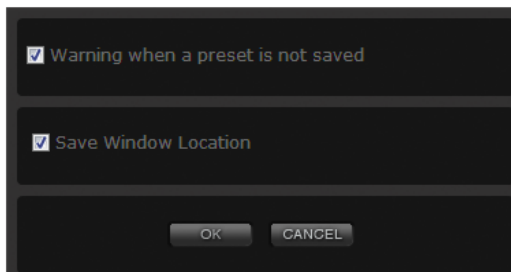
OPTION メニュー

このメニューには、環境設定コマンドが含まれます。



PREFERENCES

このコマンドを選択すると、以下のようなダイアログが開きます。



Warn when a preset is not saved

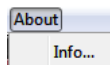
このチェック・ボックスにチェックすると、選択しているサウンドやフェイバリットの変更を保存していないときに、別のサウンドまたはフェイバリットを選択すると、警告メッセージが表示されます。

Save window location

このチェック・ボックスにチェックすると、ウィンドウの状態が記憶され、SV-1 エディターを起動したときには、前回の表示が再現されます。

ABOUT メニュー

エディターに関連する情報を参照できます。



INFO

SV-1 エディターのバージョン、SV-1 の OS のバージョン、著作権情報が表示されます。



付録

工場出荷時の音色

サウンド

#	Name	TYPE ノブ	VARIATION ノブ	RX	
1	Tine EP/Amp	E.Piano 1	1	✓	弦同様の動きをするタイン / トーン・バー機構を持つエレクトリック・ピアノの代表的なモデル。ギター・アンプを通した 70 年代のサウンドの 1 つ。
2	Tine EP/Phaser		2	✓	フェイザー・エフェクトを加えたタイン / トーン・バーのエレクトリック・ピアノ。数限りない多くのロックやソウル・ミュージックの名演でも有名。
3	Tremolo EP		3	✓	ステレオ・トレモロ・エフェクトに特長のある、もう 1 つの代表的なセッティングのタイン / トーン・バーのエレクトリック・ピアノ。
4	Dyno EP		4	✓	70 年代後半から 80 年代にかけてポピュラーな改造モデルで、金属的なアタック音と透明感のあるシャープなサウンド。
5	VPM Piano		5		80 年代中期以降ポピュラーとなった、デジタル・シンセサイザーのエレクトリック・ピアノ。
6	VPM Tine		6		よりエッジの効いた音色バリエーションを持つ、デジタル・シンセサイザーのエレクトリック・ピアノ。
7	Reed EP 1	E.Piano 2	1	✓	60 年代から 70 年代にかけて発売された、独特の響きを持つ、ファンキーでアーシーなエレクトリック・ピアノ。
8	Reed EP 2		2	✓	リード機構を持つエレクトリック・ピアノ。エフェクト・セッティングにより、最も代表的なサウンドを再現。
9	Electric Grand		3	✓	70 年代中期に発売された、アコースティック・ピアノに非常に近い構造を持つモデル。
10	SG-1D Piano		4	✓	コルグのサンプリング・ピアノの代表的モデル。深い低音、ブライツな高音、自然なダイナミクスが特長。
11	80's Synth Piano		5		80 年代後半に発表された、有名なシンセサイザー・メーカーによる正確で表現力豊かなピアノ・サウンド。
12	MIDI Grand		6		80 年代、90 年代に数多くのヒット・ソングに使用された、有名なレイヤー・サウンド。アコースティック・ピアノとエレクトリック・ピアノをミックスし、少しスパイスをブレンドした、バラードに最適なサウンド。

#	Name	TYPE ノブ	VARIATION ノブ	RX	
13	Clav AC	Clav	1	✓	当初、ポータブル・ハーブシコードとして発表されたモデル。その特長のあるサウンドは、スタンダードなキーボード・サウンドの1つとなった。
14	Clav BC		2	✓	オリジナル・モデルのスイッチ B と C の組み合わせによるサウンド。70 年代の有名なファンク・チューンにより確立された Clav を代表するサウンドの1つ。
15	Clav BD		3	✓	スイッチ B と D の組み合わせによるサウンド。
16	Clav AD		4	✓	スイッチ A と D の組み合わせによるサウンド。
17	ElectroPno	Piano	5	✓	60 年代に製造された、ユニークなメカニック構造のエレクトリック・ピアノ。独特なそのソフトな音色で、セッション・キーボーディストの間で人気があったモデル。
18	ElectraPno		6		70 年代に人気のあったエレクトリック・ピアノ。多くのロック、プログレッシブ・ロックのキーボーディスト達が使用。
19	Grand Piano 1		1	✓	日本製のグランド・ピアノを細やかにサンプリング。ポップスやジャズに最適なアコースティック・ピアノ・サウンド。
20	Grand Piano 2	2	✓	ドイツ製の最も有名なグランド・ピアノを正確にサンプリング。ジャズ、クラシックに最適な、アコースティック・ピアノ・サウンド。	
21	Mono Grand	3	✓	ドイツ発グランド・ピアノのモノラル・バージョン。ロックかポップ・ミュージックに最適。	
22	Upright	4	✓	独特な音色を持つ、ドイツ製のアップライト・ピアノ。	
23	Piano/Strings	5		アコースティック・ピアノとストリングスをミックスしたサウンドで、バラードに最適。	
24	Piano/Pad	6		アコースティック・ピアノに暖かみのあるシンセ・サウンドを加えた、スタンダードなレイヤー・サウンド。	
25	Click Tonewheel	Organ	1	✓	最もスタンダードなオルガン・サウンドで、ロック、ジャズには必修となっている。
26	Jazz Tonewheel		2	✓	特に、ジャズ、ファンク・チューンに最適なセッティング。
27	Full Tonewheel		3	✓	いわゆる、フル・ドローパー・セッティングの、トーン・ホイール・オルガンのサウンド。
28	Console Organ		4	✓	アメリカ製のチューブ・オルガンの代表的なサウンド。伝説的なロック・キーボーディストの 1 人、Garth Hudson の数々の名演奏で有名。
29	Italian Combo		5	✓	60 年代後期に制作された、イタリア製オルガン。その独特なサウンドは、数多くのロック・バンドで使用された。
30	Vox Combo		6	✓	VOX コンチネンタル・サウンドを完璧に再現。60 年代初期のトランジスタ回路を持つコンボ・オルガンの代表的モデル。

#	Name	TYPE ノブ	VARIATION ノブ	RX	
31	Full Strings	Other	1		暖かみのあるきめ細かい表現力を持つオーケストラ・サウンド。
32	Tape Strings		2		60年代後半から70年代のプログレッシブ・ロック・バンドにおいて、トレード・マーク的存在となったテープ再生式サンプラーのストリングス・サウンド。そのユニークなサウンドは人気が高く、現在でも使用される。
33	70s Strings		3		スタンダードなストリングス・サウンド。特に70年中後期の数多くのレコーディング使用された。
34	Choir		4		男声、女声ミックスのクワイアー・サウンド。
35	Synth Brass		5		暖かく表現力のある、誰もが知っているシンセ・ブラスの代表的サウンド。
36	Sharp Brass		6		80年代のロック・チューンからの躍動感あるシンセ・サウンド。

: プログラム・チェンジ番号に対応しています (数字は1から始まります。0から始まるシーケンサーの場合は、1を引いてください)。

RX: RX ノイズが含まれることを表します。

フェイバリット

#	PC	Name	TYPE ノブ	RX	#	PC	Name	TYPE ノブ	RX
1	37	Grand Piano 1	Piano	✓	5	41	Clav AC	Clav	✓
2	38	Grand Piano 2	Piano	✓	6	42	Click Tonewheel	Organ	✓
3	39	Tine EP/Amp	E.Piano 1	✓	7	43	Full Strings	Other	
4	40	Reed EP 1	E.Piano 2	✓	8	44	Sharp Brass	Other	

PC: プログラム・チェンジ番号に対応しています (数字は1から始まります。0から始まるシーケンサーの場合は、1を引いてください)。

RX: RX ノイズが含まれることを表します。

キーボード・ショートカット

この表は、各メニュー・コマンドに対応するショートカットを示します。

コマンド	ショートカット	Macintosh のショートカット
File メニュー		
New	Ctrl+N	⌘+N
Open	Ctrl+O	⌘+O
Save	Ctrl+S	⌘+S
Save As…	Ctrl+Shift+S	⇧+⌘+S
Close	Ctrl+W	⌘+W
Transmit	Ctrl+T	⌘+T
Quit	Ctrl+Q	⌘+Q
Edit メニュー		
Cut	Ctrl+X	⌘+X
Copy	Ctrl+C	⌘+C
Paste	Ctrl+V	⌘+V
Delete	Del	Del
Rename…	Ctrl+R	⌘+R
Option メニュー		
Preferences…	-	-
About メニュー		
Info…	-	-

保存される設定とその保存先

WRITE CURRENT PRESET または WRITE GLOBAL をクリックすると、設定は以下のように保存されます。

ローカル・オフ、マスター・チューニングの設定は保存されません。

設定	保存先
エフェクト	サウンドまたはフェイバリット
チューニング・カーブ	サウンドまたはフェイバリット
タッチ・カーブ	サウンドまたはフェイバリット
トランスポーズ	グローバル
MIDI チャンネル	グローバル
RX ノイズのボリュームと EQ	サウンドまたはフェイバリット